

[成果情報名] **ピラジフルミド水和剤苗灌注処理と定植前植え溝転炉スラグ施用の併用によるネギ黒腐菌核病の省力防除**

[要 約] ピラジフルミド水和剤の苗灌注処理と定植前植え溝転炉スラグ施用を併用することで定植後の追加防除なしに極めて高い防除効果が得られる。

[キーワード] ネギ、黒腐菌核病、転炉スラグ、ピラジフルミド水和剤、定植時処理

[担 当] 静岡農林技研・植物保護・環境保全科

[連絡先] 電子メール agrihogo@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 生産環境(病虫害)

[分類] 技術(参考)

[背景・ねらい]

根深ネギ栽培における重要土壌病害であるネギ黒腐菌核病に対して、植物体内への浸達性に優れ、長期間効果が持続するピラジフルミド水和剤が新規に登録された。本剤は定植時処理のみによる省力的な防除が可能だが、甚発生条件では追加防除が必要となり省力性が損なわれるケースがある。本病害は病原菌自ら発病に好適な酸性条件を作り出すことから、中性以上の土壌 pH を長期間維持できる定植前の植え溝への転炉スラグ施用と組み合わせ、ピラジフルミド水和剤による防除効果を向上させる。

[成果の内容・特徴]

- 1 定植用植え溝に pH7.5 を目標として量を設定した転炉スラグと苦土補給用の水酸化マグネシウム 25 kg/10a を混入し、ピラジフルミド水和剤（商品名：パレード 20 フロアブル）を育苗期後半～定植当日セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊（約 30×60cm、使用土壌約 1.5～4L）あたり 100 倍希釈・0.5L 灌注した苗を定植する。
- 2 黒腐菌核病による廃棄株率が無処理で 100% 近くなる甚発生条件において、定植前の転炉スラグ施用をピラジフルミド水和剤苗灌注処理組み合わせることで、土寄せ時の追加防除なしで廃棄株率を 10% 未満に抑制できる（図 1）。
- 3 併用処理により等級を落とすことなく被害軽減による収量増が見込まれる（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 転炉スラグは粉状の「S-ミネカル」を使用した結果である。
- 2 転炉スラグの施用量は事前に村上・後藤(2008、関西病虫研報 50:97-98)の方法で算出しておく必要がある。植え溝への施用のため、圃場全面の 1/4 量となることに注意する（畝間 1 m、植え溝幅 0.25m として計算）。
- 3 本成果は灰色低地土での試験成績によるため、土壌群が異なる場合は適正な目標 pH を明らかにする必要がある。

[具体的データ]

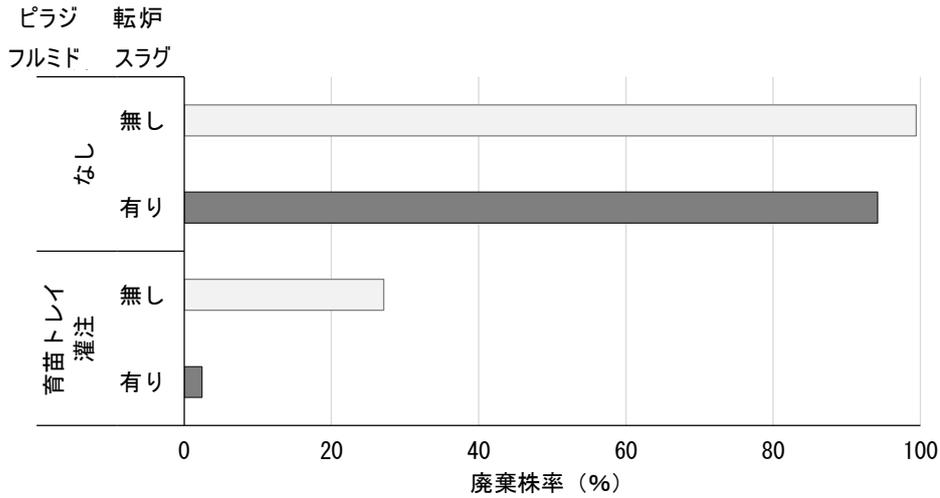


図1 定植前植え溝転炉スラグ施用とパイジフルミド水和剤苗灌注処理の併用によるネギ黒腐菌核病の省力防除(3反復まとめ)

農林技術研究所内隔離圃場（灰色低地土）。接種による甚発生条件。

- ・定植：R1/6/17（品種：龍ひかり2号）、収穫調査：R2/2/18
- ・パイジフルミド苗灌注処理：R1/6/15（定植2日前）
- ・転炉スラグ 150 kg、水酸化マグネシウム 25kg/10a 処理：R1/6/17（定植前当日）

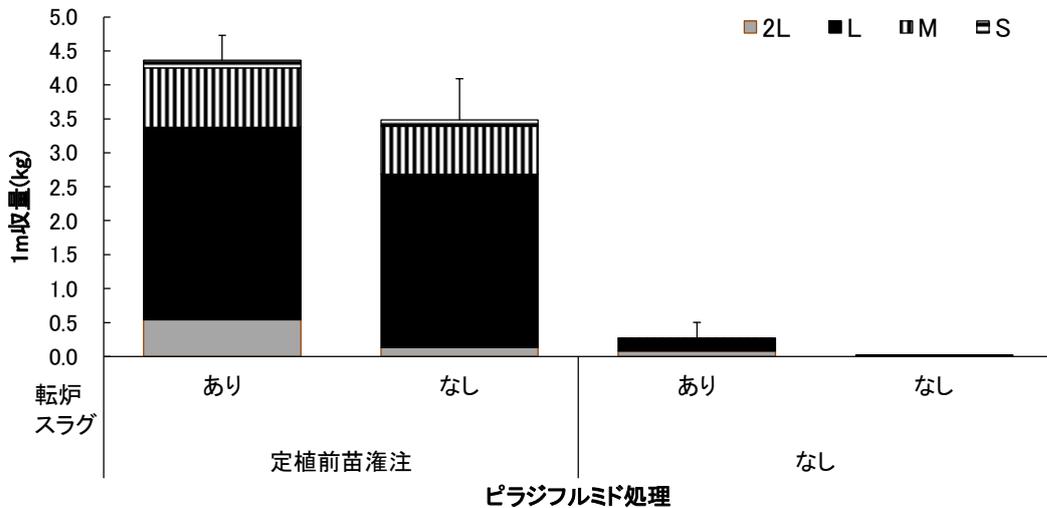


図2 転炉スラグ・パイジフルミド苗灌注処理によるネギ収量・品質への影響

[その他]

研究課題名：圃場の健康診断に対応したネギ病虫害予防的管理技術の開発

予算区分：国庫

研究期間：2016～2021年度

研究担当者：伊代住浩幸、鈴木幹彦、斉藤千温、墨岡宏紀、高橋冬実、寺田彩華、金原菜見

発表論文等：墨岡ら（2018）関西病虫研報 60：47-53